

2025年 サビエル高等学校 入学考査問題

「国語」

注意

- 1 指示があるまで、開いてはいけません。
- 2 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 問題用紙は、表紙を除いて9ページで、問題は㊦～㊰までです。
- 4 ㊦～㊰の問題すべてに解答してください。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 日本の社会では、「みんなで渡れば恐くない」ということがよく言われます。個人が集団に参加する時には、その集団の価値を自分のものとして参加するもので、そのためにはある程度の犠牲は払うものだと考えられているわけです。自分の意見よりも、みんなが言うことが正しいということですね。これは個人主義ではありません。それでは個人の自由がなくなってしまいます。

(A)、②「みんなで渡れば恐い」ことだつてあるのです。たとえば、第二次世界大戦に参加した日本、中国侵略を始めた日本がそうです。それで最後には原爆を投下されて、無条件降伏に^aイタ^aるわけです。あれは「みんなで渡った」結果です。「みんなで渡ったから恐かった」のです。当時、国内に反対する批判者がいなかったために、ああいう結果になってしまいました。一つの集団の中に、少数グループがあり、あるいは個人の少数意見が生かされたりしていないと、その集団は方向転換することができなくなってしまいます。(B)、集団の方向転換は、集団内部の少数意見が、ある日多数派になった時に起こるからです。けれども、少数意見がもともと内部にないならば、変わりようがない。ただ一つの方角しかないのだから、集団は破滅するまでまっしぐらに進んでいくことになります。ナチスドイツもそうでした。第二次世界大戦前の日本もそうだったのです。

一九四一年の一二月に、日本軍は真珠湾攻撃で大勝利をおさめましたけれども、その大勝利によって日本の海軍が西太平洋の海上権と制空権を持っていたのは、四二年六月の^{注1}ミッドウエー海戦までのわずかに半年、一年に満たない期間でした。太平洋戦争の初期のころから戦況は悪いぶん悪かったのです。方向転換の必要性が、一年もたたないうちに、出てきていました。そのあとも、もっと悪くなって、何度も方向転換の必要性があきらかにになりました。しかし、結局、方向転換はできませんでした。これは実に驚くべきことです。

戦争末期、四五年になって、ポツダム宣言が出て、まだそれを受け入れられない。四五年一月段階の日本には、戦争に勝つことはもとより、連合国に^bテイコウ^bする能力すら、もう完全になくなっていたのです。それでも、戦争を終結させる方向にかじを(X)ことはできませんでした。

集団がこれはまずいと思った時に方角を変えるためには、その前から少数意見をその中に^cホジ^cしていなければ

ばいけません。そうでなければ方角を変えられなくなってしまいます。破滅的な戦争をやめることができず、ほんとうに破滅するまで続けるほかないのです。^③だから少数意見は大事なのです。

少数意見が多数意見となって社会を大きく動かした例があります。六八年の米国です。六〇年代半ばまでベトナム戦争に対して反対する意見は少数意見でした。米国内にはそうした反戦の声はほとんどなかったと言ってもよいと思います。それがだんだん大きくなっていきます。いちばん最初は、大学の中から反戦の声があげられました。始まりは、カリフォルニア大学バークレー校です。それが別の大学にも拡がり、(C)、キリスト教団体など、大学の外にも拡がっていき、最後にメディアにも拡がりました。テレビの全米ネットワークで、当時一番有名で影響力があるとされていた^{注2}アンカーマン、^{注3}ウォルター・クロンカイトがベトナム戦争批判を展開し、それが政府にも大きな影響を与えました。

こうした声も、初めは本当に少数の意見だったのです。バークレー校の学生の一部の声でした。(D)、あなた方も同じなのです。少しの学生から始まって、それが次第に大きくなって他の学生も支持するようになれば、またさらに大きくなっていくことでしょう。少数意見も、ある程度以上まで拡がると、社会も無視するとはできなくなります。^④必ずそういうときがくると思います。

全会一致型でみんなが同じことをするのが正しくて、「みんなで渡れば恐くない」というのは(Y)なウソです。そんなバカなことはありません。ほんとうに恐い問題が出てきたときこそ、全会一致ではないことが必要なのだと私は考えます。それは人権を内面化することでもあるのです。個人の独立であり、個人の自由です。日本社会は、ヨーロッパなどと比べると、こうした部分が弱いのだと思います。平等主義はある程度^dフキユウしましたが、これからは、個人の独立、少数意見の尊重、「^{注3}コンセンサスだけが^eノウじゃない」という考え方を徹底する必要があります。日本の民主主義は平等民主主義だけれど、少数意見尊重の個人主義的な自由主義ではない。それがいま、いちばん大きな問題です。

(加藤周一『学ぶこと 思うこと』より)

〔注〕 1 ミッドウェー海戦：一九四二年六月に起きた日本海軍とアメリカ海軍の海戦。

- 2 アンカーマン：・ニュース番組の総合司会者。ニュースについて解説などをしつつ番組を進行する。
- 3 ウォルター・クロンカイト：・アメリカのジャーナリスト、アンカーマン。
- 4 コンセンサス：・意見の合意・総意のこと。

問一 二重傍線部 a) e について、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 空欄 (A) ㄱ (D) に当てはまる語として適当なものをそれぞれ次の 1 ～ 5 からを選び、番号で答えなさい。

- 1 しかし
- 2 だから
- 3 なぜなら
- 4 また
- 5 やがて

問三 空欄 (X) (Y) に当てはまる語として適当なものをそれぞれ次の 1 ～ 4 から選び、番号で答えなさい。

X：・1 おる 2 たたく 3 きる 4 まげる

Y：・1 真っ青 2 真っ黒 3 真っ赤 4 真っ白

問四 傍線部①について、筆者はこの言葉を日本社会のどのような状況の象徴だと考えているか。それを説明した次の文の空欄に当てはまる語を答えなさい。

(I) よりも (II) を尊重するような社会。

問五 傍線部②について、筆者がここで言いたいことはどのようなことか。最も適当なものを次の 1 ～ 4 から選び、番号で答えなさい。

1 全員が同じ意見を抱いているように見える集団でも、うわべだけで全体に従っている人が多数であれば、いずれ分裂するということ。

2 多くの集団が同じ意見を抱いた場合、異なる意見を持つ少数の集団が孤立し、戦争を招くことになるということ。

3 集団の中での問題について意見が分かれた場合は、少数派の意見を採用しなければ確実に集団が崩壊するということ。

4 集団全体が一つの意見に染まり、それを批判する人がいない状況は、集団にとって危険だということ。
問六 傍線部③とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の1～4から選び、番号で答えなさい

1 集団の進んでいる方向が間違っている場合、方向転換するのに少数意見が必要だから。

2 集団の進む方向が破滅へ続いている場合、それを促進させるために少数意見が必要だから。

3 集団の意見は多数派が決めるものであり、その意見を深めるために少数意見が必要だから。

4 集団の進んでいる方向が間違っている場合、次の行動を公平に決めるために少数意見が必要だから。

問七 傍線部④について、「そういうとき」はどのようなときか、二五字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問八 筆者は日本社会をどのような社会にすべきだと言っているか。「個人」「少数意見」という語を用いて二五字以内で答えなさい。(句読点を含む)

㉓ 次の文章は、湯本香樹実の小説『ポプラの秋』の一節である。小学一年生の千秋(「私」)は、父の急死後母と移り住んだアパートの管理人である「おばあさん」と仲良くなった。ある風の強い日、おばあさんは風にあおられて転倒し動かなくなってしまう。これを読んで、後の問いに答えなさい。

母の勤めが休みの日、私は母についておばあさんの病院にお見舞いに行った。倒れてから三日目くらいだったと思う。おばあさんは酸素吸入器をつけて眠っていた。広いおでこの庇ひさしの下からいつも周囲に(A)と睨にらみをきかせている目は閉じられて、白い布団はぺっそりと平たい。おばあさんはきゆうに小さくなってしまったようだった。おばあさんのあまりの弱々しさに、私はショックを受けた。それはおばあさんが倒れた時とはまた別の種類の、(B)と冷たいものがしみ込んでくるようなショックだった。

「おばあさん、死んじゃうの？」

病院からの帰り道、私は母に訊きいた。大丈夫よ、と母は答えてくれたものの、やはり不安そうだった。私の目に、またしても注1あのマンホールの蓋ふたが、真っ黒な口を開けて待ち構えているのが見えた。「いやだ、消えろ」と私は呟つぶやいたけれども、それは不気味な笑い声を洩もらしたただけだった。

その日の夕方、母はおばあさんの家の鍵かぎを開けた。佐々木さんと母が、それぞれの休みの日におばあさんのところへ替えの寝巻などを持って行くことになっていて、おばあさんの家の鍵を交代で預かっていたのだが、母は翌日の出勤前にもう一度、病院に寄って下着の替えを置いてこようと考えたのだ。

私は母が外階段を降りていく足音をききながら、^{注2}あの抽出ひきだしのことを考えていた。今し方見たばかりの、^①壊れかけた木彫りの人形のようなおばあさんの姿は、とうとうあの抽出しがいっぱいになったしなのではないかと。でも、今ならまだ、おばあさんを助けることができる。おばあさんが暗い穴に引きずり込まれる前になんとかするなら、そのチャンスは、鍵の開いている今しかないのだ……

私は母の後を追って、そつと階段を降りた。玄関の引き戸は、幸い開けっ放しになっていて、母は風呂場ふろばの手前、おばあさんの寝室の向かいの^{注3}納戸なんどのようなところにいるらしかった。私は足音を忍ばせ、^aいちかばちか^②で納戸の前を通り抜けると、いつもの茶の間に辿たどり着いた。母の鼻唄はなうたがきこえる。気づかなかつたのだ。

私は台所から踏み台を持ってくると、黒い大きな箆たんすの前に置き、その上についた。背伸びをすれば、いちばん上の抽出しのなかを覗のぞき込める高さだ。さつと、素早く、見てしまえばいい。おばあさんは言ったではないか。抽出しの中身を見たら、見た者が手紙を運ぶことになるのだと……

おばあさんの身代わりになって死ぬ、などという^b悲壮な決意があったのかといえば、決してそうではなかったのだ。自分からすすんで抽出しの中身を見てしまえば、^③蓋のないマンホールに飲み込まれてしまう恐怖をやっつけることができるのではないか……どこか頭の隅すみに、そんなやぶれかぶれの考えがあったのは確かだけれど、^④それだって二の次のことだ。私はただ、おばあさんが死んでしまうのはいやだった。おばあさんに生きていてほしかったのだ。

私は踏み台の上で足を踏ん張り、全身の力をこめて抽出しの把手とつてを引っ張った。重い抽出しは、思いのほか滑らかに、音もなく開いた。お香のような匂いが、（C）と立ち上がり、私は思わず目を閉じた。背伸びをする。さあ、目を開けて。そうすればおばあさんは死なずにすむ。さあ、目を開けるんだ……！！

けれど私の目はぎゅっと閉じたままで、背伸びした爪先は（D）震えた。

（湯本香樹実『ポプラの秋』より）

〔注〕 1 あのマンホール：父の突然の死を理解できなかった千秋は、父は蓋の開いているマンホールにうっかり落ちて

て消え失せてしまったも同然だと思い、しばらくの間、マンホールに引きずり込まれる幻影に悩まされた。

2 あの抽出し：おばあさんは、自分が死ぬときにあの世に届けるのだと言って、いろいろな人から手紙を預かり筆筒の抽出しにしまっていた。

3 衣類や調度品などをしまっておく部屋。

問一 空欄A～Dについて、次の問いに答えなさい。

(1) 空欄A～Cに入る語として適当なものをそれぞれ次の1～6から選び、番号で答えなさい。

- 1 さりり 2 ふわり 3 ざりり 4 そろり 5 じわり 6 ざろり

(2) 空欄Dに入るひらがな四文字の擬態語を、考えて答えなさい。

問二 傍線部a～bの意味として適当なものをそれぞれ次の1～4から選び、番号で答えなさい。

a いちかばちか

- 1 普段と同じ様子で物事を行うこと。
2 運を天に任せて思い切ったことをすること。
3 なんとでもなれ、という気持ちで行動すること。
4 用心の上にも用心して行動すること。

b 悲壮な

- 1 悲しい結果が予想されるので、あえて雄々しく振る舞う様子。
2 悲しい結果を想定しながらも、沈着冷静である様子。
3 悲しい結果を覚悟して、悲しく絶望的な気持ちであること。
4 悲しい結果が予想されるにもかかわらず、雄々しく意気込んでいる様子。

問三 傍線部①について、次の問いに答えなさい。

(1) これは何という比喩表現か。最も適当なものを次の1～4から選び、番号で答えなさい。

1 直喩 2 隠喩 3 換喩 4 擬人法

(2) おばあさんのどのような様子を表しているか。最も適当なものを次の1～4から選び、番号で答えなさい。

1 生きる気力を失っている様子。

2 やせ衰えて生氣のない様子。

3 苦しみに必死に耐えている様子。

4 すっかり年老いて元氣のない様子。

問四 傍線部②「気づかなかつたのだ」とあるが、母は何に気づかなかつたのか。二十字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問五 傍線部③「蓋のないマンホール」とは何のたとえか。漢字一字で答えなさい。

問六 傍線部④「それ」が具体的に指している六十一字の箇所を文中から抜き出し、初めと終わりの五字で示しなさい。

問七 二重傍線部「なんとかする」とは、何のために何をするのか。三十字以内で答えなさい。(句読点を含む)

Ⅲ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、小野篁おののたかむらといふ人おはしけり。嵯峨さか帝みかどの御時おほんときに内裏ないりに札を立てたりけるに、^①無悪善と書きたりけり。帝、篁に、「読め」と仰せられたりければ、「読みは読み候さぶらひなん。されど恐れにて候へば、え申し候はじ」と奏そうしければ、「ただ申せ」とたびたび仰せられければ、「さがなくてよからんと申して候さぶらぞ。されば^②君を呪ひ参らせて候ふなり」と申しければ、「おのれ放ちては誰たれか書かん」と仰せられければ、「^③さればこそ

申し候はじとは申して候ひつれ」と申すに、御門、「さて何も書きたらん物は読みてんや」と仰せられければ、
「^④何にても読み候ひなん」と申しければ、^⑤片仮名の子文字を十二書かせて給ひて、「読め」と仰せられければ、「ねこの子のこねこ、ししの子のこじし」と読みたりければ、御門^⑥ほほゑませ給ひて事なくてやみにけり。

(『宇治拾遺物語』「小野篁広才の事」)

〔現代語訳〕

今となつては昔のことだが、小野篁という人がいらつしやつた。嵯峨天皇の御時に宮中に札を立てた者がいたが、それには「無悪善」と書いてあつた。天皇が篁に「読め」とお命じになつたので、「読むことは読みましよう。しかし、^{おそ}畏れ多いことでございますので、とても申し上げられますまい」と申し上げると、「かまわず申せ」とたびたびおっしゃるので、「『さがなくてよからん』と申しておりますよ。すなわち、主上を呪い申しているのです」と申し上げたところ、「そんなことはおまえ以外に誰が書こうか」とおっしゃつたので、「それだからこそ、申し上げますまいと申したのです」と申すと、天皇は「それなら何でも書いた物なら読めるといふのか」とおっしゃつたので、「
」と申し上げると、カタカナの子とという字を十二書かせてお与えになつて、「読め」とおっしゃつたので、「猫の子の子猫、獅子の子の子獅子」と読んだところ、天皇は微笑みなさつて、何のおとがめもなく済んだのであつた。

問一 傍線部①「無悪善」に返り点と送り仮名を付けなさい。

問二 傍線部②「君を呪ひ参らせて候ふ」とあるが、立て札に書かれた文字がなぜ帝を呪っていることになるのか。その説明として最も適当なものを次の1～4から選び、番号で答えなさい。

- 1 「さがなくてよからん」は、「帝は欠点があればよいだろう」という意味だから。
- 2 「さがなくてよからん」は、「嵯峨天皇はよくないだろう」という意味だから。
- 3 「さがなくてよからん」は、「帝は欠点がないのでよくないだろう」という意味だから。
- 4 「さがなくてよからん」は、「嵯峨天皇はいなくてよいだろう」という意味だから。

問三 傍線部③「さればこそ申し候はじとは申して候ひつれ」とあるが、小野篁が帝の命令に対して、始め「え申し候はじ」と答えた真意は何か。三十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

問四 傍線部④の現代語訳として最も適当なものを次の1～4から選び、番号で答えなさい。

- 1 何でもきつと読みましょう。
- 2 何でも読むことはできません。
- 3 何にしても読むつもりはありません。
- 4 何にしてもここは読むしかないでしょう

問五 傍線部⑤について、次の問いに答えなさい。

(1) 傍線部⑤は「ネネネネネネネネネ」ということだが、小野篁はこれをどのような手順で読んだのか。それを図示した次の空欄に適当な語を入れなさい。

○ 「ネ」を「A」に置き換える。



○ 「A」の読み方である「B」「C」「D」を傍線部⑤に当てはめる。

(2) 解答用紙の「ネネネネネネネネネ」に篁が読んだように読み仮名と読点を付けなさい。読み仮名は右横に書くこと。

問六 傍線部⑥「ほほゑませ給ひて」を現代仮名遣いを用いて書き直しなさい。